

【現状】

- 自殺者数は、2017年から2021年までの5年間で83人となっており、自殺死亡率は5年間の平均は13.7%となっている。
- 自殺者数は増減を繰り返していることが伺える。

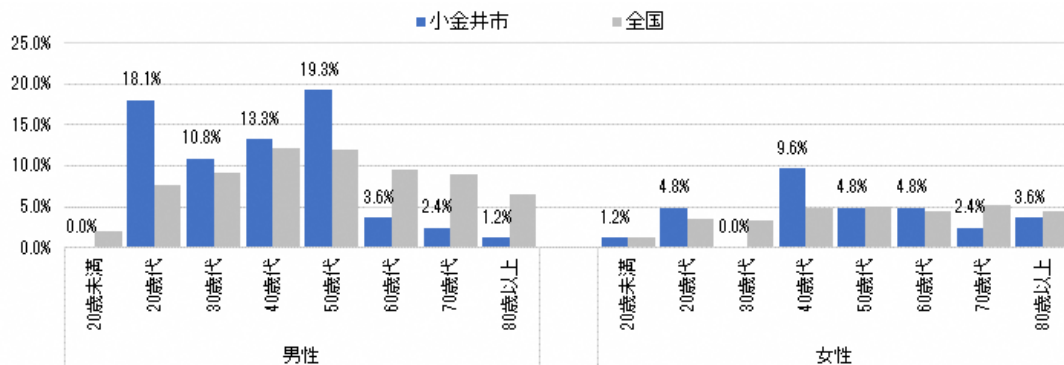
自殺者数および自殺死亡率の推移（2017～2021年）

	2017	2018	2019	2020	2021	合計	平均
自殺統計(自殺日・住居地) 自殺者数	15	22	15	17	14	83	16.6
自殺統計(自殺日・住居地) 自殺死亡率	12.6	18.3	12.4	13.9	11.3	-	13.7
人口動態統計 自殺者数	11	18	11	11	13	64	12.8

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び厚生労働省「人口動態調査」保管統計表 都道府県編

- 小金井市の性・年齢別の自殺者割合をみると、男性50歳代が最も高く19.3%、次いで男性20歳代が18.1%、男性40歳代が13.3%となっている。
- 全国と比較すると、男性50歳代、男性20歳代で割合が非常に高くなっている。
- また、女性40歳代で9.6%と、全国と比較すると、高い割合となっている。

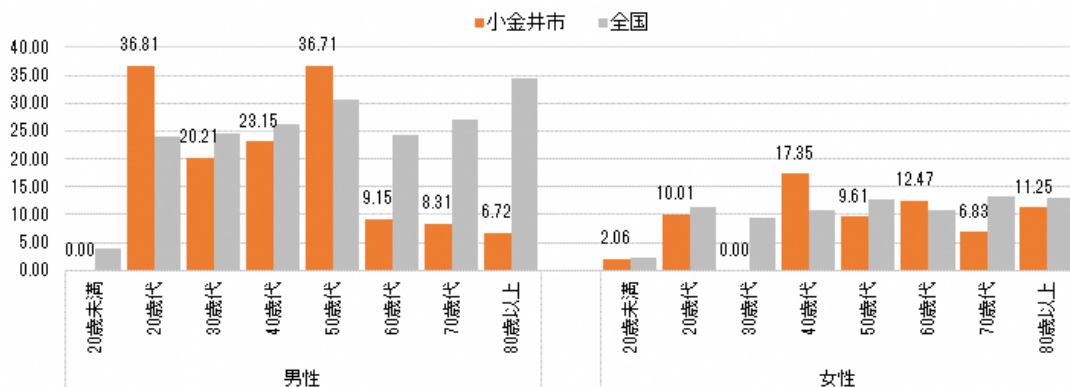
性・年代別の自殺者割合（2017～2021年）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び厚生労働省「人口動態調査」保管統計表 都道府県編

- 小金井市の性・年齢別の平均自殺死亡率をみると、男性50歳代、男性20歳代で高くなっている。
- 全国と比較すると、男性60歳以上では低くなっており、男性の若年層（20歳代から50歳代）で高くなっている。

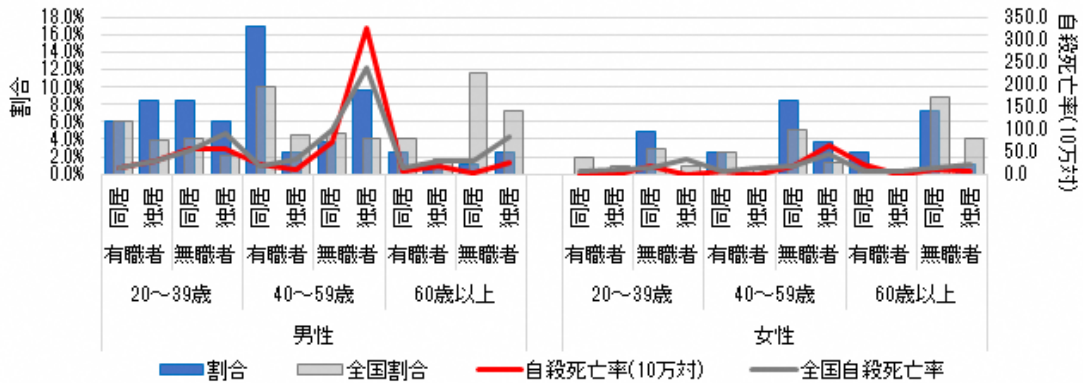
性・年代別の平均自殺者死亡率（2017～2021年）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び厚生労働省「人口動態調査」保管統計表 都道府県編

- ・男性 40～59 歳の有職者で自殺者割合が高くなっている。また、男性 20～39 歳の有職者も比較的高くなっており、特に独居の割合が高くなっている。
- ・男性 40～59 歳の無職者で独居の割合も高く、自殺死亡率は最も高くなっている。

地域の自殺の概要（2017～2021 年合計）〔公表可能〕＜特別集計（自殺日・住居地）＞



資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計

- ・有職者の自殺の内訳をみると、全国割合と比較すると、「被雇用者・勤め人」の割合が高くなっている。

有職者の自殺の内訳（2017～2021 年合計）〔公表可能〕＜特別集計（自殺日・住居地）＞

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	4	11.4%	17.5%
被雇用者・勤め人	31	88.6%	82.5%
合計	35	100.0%	100%

資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計

【特徴】

- ・小金井市の自殺者数は 2019 年以降は、14～17 人の幅で増減を繰り返しており、自殺死亡率も全国に比べ低くなっている。
- ・「地域自殺実態プロファイル 2022」における重点パッケージは「勤務・経営」「無職者・失業者」「生活困窮者」「子ども・若者」となっている。
- ・特に、全国と比べると、男性の若年層（20～50 歳代）の働き世代で多くなっている。
- ・また、コロナ禍で、全国的に女性の自殺者数が増えている中で、小金井市では女性の 40～59 歳の無職者で死亡割合が高くなっている。
- ・新型コロナウイルスにより、職を失ったり、収入が減ったり、新しい仕事を見つけることが困難になったこと、家族や友人とのコミュニケーションの機会が減り、孤独を感じる機会が増えたことなどが一要因であると考えられる。